

『もう一度みんなで』

福島県いわき市

富岡町少年剣道団

小学6年生 堀川佳乃

小学1年の春、私は富岡町少年剣道団に入団しました。第36期生。仲間は年中の男の子が1人、それと同じ1年生の男の子1人に女の子4人の全部で6人。私の剣道はここから始まりました。

所作や足さばきの基本のけいこ。大きな声での返事やあいさつ。みんなよりも上手に出来ている、といつも思っていました。だんだんと素振りや面打ち、そしてまもなく防具を着けてのけいこが始まりました。自分ではちゃんと出来ているつもりなのに、先生からは注意されることばかり。みんなはほめられるのに、私ばかり怒られる。どうして？

そして、試合に出るようになりました。私は負けてばかり。試合が終わるたびに「ここが良くなかった。こうしなさい。」と指導されました。「出来てるじゃない。なんで注意されるの？」だんだんと、けいこが面白くなくなっていました。注意されることも多く、防具袋ごと外に出されたこともあり

ます。つまらない、楽しくない…剣道、やりたくない、そう思うように、いつしかなってしまいました。

そんな時にあの震災が起きました。私の家族は5回の引っ越しで今の家に落ちつききました。毎日の様に顔を合わせてけいこをしてきた6人の仲間は、たった2人になりました。1人は同じ県内の大玉村、1人は会津若松に、そして後の2人は、遠い愛媛県の松山市に避難しました。震災前は女の子がそろっていたので、みんなと同じ中学校に進み、全中へ行こうという夢を持ち始めていました。いつかみんなで全国大会へ！それが、本当に遠い、遠い夢となってしまいました。

私は避難の間、けいこをさせてもらっていた先の先生のおかげで、ある大会の団体戦に参加させてもらうことができました。3人制のチームの大將としてでした。その日初めて会った人と組む団体。大將戦、代表戦の末、優勝することができました。がんばった、がんばって優勝できた。たった一人でもがんばってけいこしたことがこうして結果になった。本当にうれしかったです。おこられてばかりだった私でもこんな結果が残せる、と心から思いました。こんな風にならなければいつかまた、みんなチームを組める、その時はみんなの足を引っ張らないで、「戦力」になって試合ができる。いつかきつと来るその日まで、と、避難先でのけいこをがんばりました。休まずに、一生懸命がんばりました。

去年の小学生選手権の5年生の部で優勝、今年女子個人選手権で優勝、少しずつのがんばりが結果になって現れてきました。今は、あの頃の注意されてばかりの私ではありません。みんなと肩を並べられる、そんな自分になっていると思います。避難でばらばらになった友達とは年に2、3回しか会えません。違う団体のゼッケンを着けています。そんな時は少しさびしくなるけれど、剣道を続けていけばまたきっと一緒にチームを組める日が来ると信じています。全中には行けないかもしれないけれど、富岡町少年剣道団のゼッケンを着けて、みんなと一緒にチームで試合が出来る、そう信じています。

今日と同じ明日が来るとは限らない、だから今日、今、この時を一生懸命生きる、それが大事だと以前先生がお話してくれたことがあります。本当にその通りだとこの震災で知りました。そして、剣道は一人では出来ないこと、一緒にけいこしてくれる仲間や試合をしてくれる相手がいて初めて剣道が出来る、その大切さも知りました。私は今、この時この瞬間を大切にして、これからもけいこに励んでいきたいと思っています。そしていつかまた、必ずみんなと一緒に試合の開始戦に立ちたい、と思います。

そして、いつもの声掛けをします。「気合い出していくぞ、おーっ!!!」